

常任幹事会開催

平成 22 年 9 月 28 日(火) 18:00-19:30 有楽町にある三菱電機ビルテクノサービス会議室で、第 1 回常任幹事会が開催されました。

新体制になって初めての会合ということで、海老根新会長の挨拶に続いて新たに常任幹事に就任された方々の自己紹介から始まり、第 9 回水交会総会開催要領を中心に審議が行われました。

審議の結果、事前に仲田幹事長から確認頂いた「本部同窓会長以下来賓各位の予定」確認結果等を踏まえ、第 9 回総会は

日時:平成 23 年 10 月 22 日(土)11:00～14:00

会場:サンケイプラザ

を前提に今後具体案を検討することとなりました。

なお、講演会やアトラクション内容他については継続審議となりましたが、会員の皆さんからも何かご提案がありましたら、幹事長 宛にご提言お願いします m(_ _)m



出版

第 7 回総会で講演頂いた、近藤テ留ミさんが、自分自身についてよく知り、人生を豊かにしたいと思う一般読者(自己発見の手引き)から占星術学習の初心者・中級者(占星術の学習テキスト、副読書)更には占星術を教授する上級者・プロ占星家(授業の教材)まで幅広い読者向けに書かれ、四半世紀にわたって現代占星術のロングセラーとなっているダグラス・ブロック & デメトラ・ジョージ 著の「あなたのための占星術」を近藤さんが翻訳し 10 月に出版されました。

興味のある方は本屋 or ネット販売で m(_ _)m



なお、第 8 回総会で講演頂いた、作潮”関口 尚”氏も今年 2 月に「風に流れる歌」-クラスの雰囲気をつくる<裏掲示板>。発言力のあるやつにビクビクする日々。目立たないよう適等に過ごせればいいと思っていたのが、変わりたいと思った。自分らしくあることの大切さ、素敵さ。そのことに気づかせてくれたのは、君。自分の価値は自分で決める。リッツの勇気は、あなたへの応援歌・・・が、徳間書店より、出版されています。

読書の秋、如何ですか！

常任幹事会開催

平成 23 年 4 月 1 日(金) 18 時 10 分～19 時 45 分「第 9 期第 2 回常任幹事会」が有楽町・三菱電機ビルテクノサービス(株)会議室にて開催され、今秋開催の総会開催内容及びその前提としての学年幹事会開催要領等について審議されました。

出席者：海老根会長、早坂副幹事長、仲田幹事長、二馬副幹事長、地頭所・坪田・近藤、榊監事

1. 総会開催要領について

幹事長よりの原案通りで進めることとなる。なお、時間割については一部見直す。

2. 学年幹事会日程について

時期：東日本大震災の状況も勘案し、6月下旬～7月中旬の間(平日・夕刻より)に開催する。

学年幹事会開催案内状案他配布資料については、幹事長原案で承認された。

本部同窓会「第10回総会」開催

平成22年7月3日(土)水戸駅前の「三の丸ホテル」にて、文理・人文学部の「第26回理事会」及び「第10回総会」が開催されました。

野口会長の挨拶に続き、「活動報告」「決算報告」「役員選任」「同窓会名簿発行の件」や同窓会からの寄付金贈呈等が行われました。

役員関係では、清水前会長が副会長を退任され、海老根新会長が副会長に就任。

幹事長には糟谷政和氏が選任され、理事の充実と併せて会の組織面での充実が図られました。

また、同窓生各位からの寄付をベースに在学生へ懸賞論文を！という事業が開始されることとなり、会場で早速寄付金箱が回されました。毎年開催ですので同窓生各位のご賛同とご協力を宜しくお願い申し上げます。



特別講演として、茨城大の文学科卒で日本近現代史(皇室制度・華族制度)専攻の小田部雄次静岡福祉大学教授から、茨大当時の話も含めながら「国民と共に歩む皇室について」データを基にした研究内容についての講話があり、懇親会に移りました。なお、和やかな懇親会は海老根水交会長のメで終りとなりました。



文理・人文学部同窓会・役員会開催

平成 23 年 6 月 17 日、文理・人文学部同窓会の役員会が、水戸キャンパスで開催され当海老根会長も参画され、第 27 回理事会開催へ向け H22 年度事業報告及び 23 年度計画案等が次の通り審議・可決され理事会へ上程されることとなりました。

27 回理事会開催について

- ・開催日 H23 年 7 月 2 日(土) 15:00 ~ 17:00
- ・会場 三の丸ホテル
- ・H22 年度事業報告及び H23 年度事業計画を行う。
- ・出席者は、6 月 16 日現在理事 44 名+来賓佐々木人文学部長及び懸賞論文受賞者を予定。

その報告

(イ) 学生懸賞論文の選考結果・表彰

- ・2011 年 2 月 21 日の締切迄に、26 編の力作が集まり、優秀賞(5 万円)2 編、佳作(2 万円)2 編が選出。
- ・表彰式は、前述理事会時に実施。
- ・次回の「懸賞論文募集」について「テーマの範囲」「募集の時期」「選考基準」他今回の経験を踏まえ、1 年かけて検討する。

(ロ) 会員名簿の発行は、「サラト」に依頼。今年 7 月中旬に発行(3800 円)予定

義援金募集について

大学もかなりの被災があったが、大学の施設等は大学 文科省で対応してもらい、本同窓会としては学生・先生へのバックアップを基本とした対応を基本として検討する。

文理・人文学部同窓会第 27 回理事会開催

平成 23 年 7 月 2 日、文理・人文学部同窓会の第 27 回理事会が、三の丸ホテルで開催されました。開会-野口会長挨拶-佐々木人文学部長挨拶の後「22 年度事業・決算報告」「23 年度事業計画・予算」が審議・決議されました。

続いて今回は昨年度実施しました”学生懸賞論文入賞者への受賞式”が実施され、岡村・久保田さんが表彰を受けられました。

論文への講評の後、受賞のお二人から応募の動機や言いたかった事等が披歴された後、懇親会となりました。

水交会からも海老根会長、早坂・小貫副会長、仲田幹事長他常任理事・学年幹事の方も多数参加され、海老根会長から 10 月 22 日(土)開催予定の第 9 回「水交会総会」についての PR をして貰いました。



野口会長挨拶



佐々木学部長挨拶



理事会風景



水交会の面々も



懸賞論文受賞の 岡村さん



久保田さん

投稿へ

懸賞論文受賞の岡村さんから、論文の要旨や応募の動機等についてお聞きしていましたところ、7月12日添付(下記)の通り投稿を頂きました。

期待されているOBの皆さん！現役の後輩の皆さんの期待に是非応えてあげて下さい。

"地方国立大学でのキャリア教育とその展望" <要旨>

2010年の大学生の就職率は60.4%であった。かつてないほどに大学生の就職は難しくなっており、超就職氷河期といわれることもある。しかし、就職が難しいにもかかわらず、就職してから3年以内に辞めてしまう若者の割合は3割を超えている。ただ就職するだけでなく、就職後も安定してキャリアを積み上げていくということがますます重要になっているのである。

このような長期のキャリアまでを見据えた場合に、大学時代にどのような教育機会を活かしていけばよいのか。とりわけ、首都圏の私立大学とは異なる就職状況にある地方国立大学では、どのような特色のあるキャリア教育が求められるのだろうか。この点を学生の視点で考えていくことが本論文の目的である。

私が提案するのは、現役学生と、OB・OGを繋ぐWeb上のシステムだ。地方国立大学である茨城大学を例に考えてみると、多くの卒業生が地元である茨城県内の企業に就職しているため、社会人として働いている方々が近傍に多数いる。この点は地方国立大学の大きな利点である。

既存の同窓会名簿の情報を活かしつつ、これからは Web 上での現役学生と OB・OG との交流が可能であれば、学生にとって大変貴重な機会になると考える。具体的には、茨城大学の学生と、OB・OG だけがアクセスできるソーシャルネットワーキングサービスの構築である。

Facebook や mixi、GREE などの既存のソーシャルネットワーキングサービスでは、情報を限定的に配信することは不可能である。これら従来のサービスでは、自分の情報が全世界に公開されてしまうため、プライバシーの保護は難しく、自分の情報を流布させることに多くの方が抵抗感を抱くだろう。しかし、ネットワークサービスにパスワードを設け、サービスの範囲を大学の関係者に限定することによって、情報が必要な人だけに必要なことを伝えることができる。また、Web 上のサービスなら従来の紙媒体の名簿より管理や更新も容易で、現役学生は最新の情報をいつでもどこでも掴むことが可能になる。

このような、学生と OB・OG との繋がりがあれば、地方国立大学のキャリア教育にとって有意義で、さらには大学自体の一層の発展にも結びつくのではないだろうか。

= 執筆の動機 =

自分自身が就職活動をしていた際に、人文学部同窓会名簿を活用して OB 訪問を行い、とても有意義な話をたくさん聞くことができました。その経験から、もっと多くの学生に OB の方々と関わる重要性を理解してほしいと思ったことが、この論文を書こうと思ったきっかけです。

論文中にも書いたように、現在入社後 3 年で辞めてしまう若者が 3 割いるという現状があります。この現状の主な原因は、仕事に対する具体的なイメージを持たないまま“なんとなく”入社してしまい、実際に仕事してみると、『思っていた仕事と違った』といって辞めてしまうということです。このことから、やはり実際に働いている方とお話しする機会は大変重要だと自身の経験からも実感しています。

= 最後に =

先日は、同窓会理事会兼懸賞論文表彰式にお招きいただき誠にありがとうございました。このような素晴らしい賞をいただけたのも、先輩方のご支援・ご活動のおかげだと心より思っております。実際に式に出席し、多くの先輩方とお話しでき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、私が現役生を代表して先輩方をお願い申し上げます。

論文中に何度も記述した通り、実際に働いている先輩方と現役学生が触れ合うことは就職活動期だけでなく、入社してからのキャリアを見据えた時に、大変重要なことだと私は考えます。どうか、後輩から連絡を受けた際には、快く会っていただければ幸いです。今後とも、今までと変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。

平成 23 年 7 月 12 日
茨城大学文学部社会科学科 4 年次
岡村 美帆